

みみセンターだより



東日本大震災から4カ月 被災地の聴覚障がい者は今・・・

<岩手>・三陸の被害が大きい。30~40m建物の4階まで届くほどの津波。

- ・被災者の家を回るときは、入れないところがいくつもあるので、遠回りして車に入った。
- ・生活環境の問題やストレスを抱えているよう。精神面のケアなど、専門家の支援が必要かもしれない。
- ・連絡網の断絶等で会員安否に大変苦心した。

<宮城>・震災直後は、停電し、ガソリンもなく、3日後やっと回ることができた。

- ・戦後の空襲の後のような状況だった。
- ・津波の情報も知らず、チリ地震の時の津波は大したことがなかったので油断していた。
- ・市町村に通訳の設置が必要。聴覚障害者に対する理解が不足している。
- ・親族が亡くなったり、家屋損壊など大きな被害が出た方もいる。

<福島>・原発の関係で避難範囲が拡大している。

- ・地震でアパートが破損し、修理のため退出を求められているが行き先がなく困っている会員も。
- ・原発事故で多数の役員・会員・要約筆記者がバラバラに避難し、協会としての組織的活動が大変困難な状況。

《東日本大震災聴覚障害者救援中央本部救援ニュース、東日本大震災全難聴対策本部ニュースより抜粋》

災害に備えよう

日ごろから、非常持ち出し品をリュックなどの背負える袋に準備しておくことが大切です。袋には次のようなものを中心に、男性では15kg、女性では10kgを目安とし、家族全員が1個ずつ用意するようになりたいものです。

1. 携帯ラジオ(予備電池を忘れずに):災害時は正確な情報が不可欠です。
2. 懐中電灯(予備電池を忘れずに)、ロウソク:停電や夜間の行動に必要です。
3. ヘルメット(防災頭巾):避難時の落下物などから頭部を保護します。
4. 非常用食料(3日分):火を使わなくても食べられるものが便利です。
5. 飲料水(3日分):1人1日3ℓ(3日分で9ℓ)を目安としたいものです。
6. 衣類(下着、上着、靴下、ハンカチ、タオルなど):携帯用衣類セットなどもあります。
7. 生活用品(ライター、マッチ、軍手、紙皿、紙コップ、ナイフ、缶切り、栓抜き、ティッシュ、ウエットティッシュ、ビニールシートなど)
8. 救急薬品、常備薬(絆創膏、ガーゼ、包帯、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、マスク目薬など):持病のある人は常備薬を忘れないようにしましょう。
9. 通帳、証書、印鑑、現金:現金は紙幣だけでなく10円硬貨なども用意しましょう。
10. 身分証明書、学生証、健康保険証など



《参考:秋田県防災HP》

他に、補聴器用予備電池、筆談ボード、筆記用具、メモ用紙なども入れておきましょう!

